

丹波篠山市立篠山東中学校『学習・生活に関する学力向上プラン』

本校では、毎年、中学1、2年生を対象に実施される丹波篠山市学力・生活習慣状況調査の結果をもとに、『学習・生活に関する学力向上プラン』を作成しています。

以下に、今回の調査結果を分析しまとめましたので報告いたします。本調査により測定できるのは、学力の特定の一部であることや、学校における教育活動の一側面であることを踏まえつつ、保護者・地域の皆様のご理解とご協力のもと、適切に連携を図りながら、一層の指導上の工夫改善に努めてまいります。今後も引き続き、本校の教育活動に対してご支援いただければ幸いです。

丹波篠山市学力・生活習慣状況調査結果の概要**【比較について】**

- | | |
|-------------------------|----------|
| ・本校の正答率が全国値に対して+5ポイント以上 | 【高い】と表現 |
| ・本校の正答率が全国値に対して差がない | 【同程度】と表現 |
| ・本校の正答率が全国値に対して-5ポイント未満 | 【低い】と表現 |

○国語科では、

全体の平均正答率は全国値と同程度です。ただし、問題別では、特に「漢字を読む」問題において全国値よりも高く、良好な結果であるのに対し、「文章を書く」問題において全国値よりも低く、課題がみられます。

○数学科では、

全体の平均正答率は全国値と同程度です。領域別では、「数と計算」の領域で全国値よりも高く、問題別では、特に「面積と体積」「文字と式」の問題で全国値よりも高い状況です。ただし、データの活用にはやや課題がみられます。

○学習習慣・生活習慣等についての意識調査からは、

「対話・話し合い」「対人ストレス」「思いやり」「成功体験と自信」「（学級の）規範意識」「発信力」など、多くのカテゴリーにおいて、課題がみられます。共通して言えるのは、人との関わりの中で培われる力が弱い傾向にあります。「社会参画」「学習習慣」「生活習慣」に関しては、全国値と同程度の結果となっています。

現在の課題および今後の学力向上方策**○国語科**

「文章を書くことが苦手」という課題を克服するために、授業の場面場面において、【文章を書く】機会を増やします。1学期から取り組んでいるミニ作文（5-10分程度の課題作文）をはじめ、自分の考えをノートやワークシートに書いてから発表したり、弁論作文（発表）に取り組んだり、「書く力」の向上をめざします。

○数学科

データ処理に関しては、2学期に学習する関数の分野や、3学期の「データの活用」の領域が大きく関連する単元となります。紙面上の学習とICTの学習をバランスよく取り入れ、いろいろなグラフやデータを活用する学習につなげていきます。

○『学習習慣・生活習慣等についての意識調査』

話し合いによって物事を解決したり、他者の意見を尊重しつつ自分の意見を述べたり、苦勞の末に物事を成し遂げたりする体験が少ないように感じます。班活動やクラス活動、部活動を通して、相手の意見に耳を傾ける機会、自分の考えを発信する機会をもつことが重要です。また、学活や道徳の授業の中で、ソーシャルスキルトレーニングやアサーショントレーニング、アンガーマネジメント等を計画的に導入していきます。

【保護者の皆さまへ（お知らせとお願い）】

本校では、今回の調査結果を生かして、お子様一人ひとりについての学習のあり方や生活習慣について指導・支援方法を検証し、取組を充実させていきます。ご家庭におかれましても、子どもたちの家庭学習のあり方や生活習慣についてご確認いただき、ご支援をよろしくお願いいたします。

子どもたちの持てる力を引き出すには、周囲の大人の支えが必要です。個々の成長、そして、より良い集団形成のためにも、学校と家庭、地域とが互いに連携して子どもたちを支えていけますよう、ご協力をよろしくお願いいたします。